

JR芸備線の利用促進に向けて

令和3年8月5日
広島県地域政策局

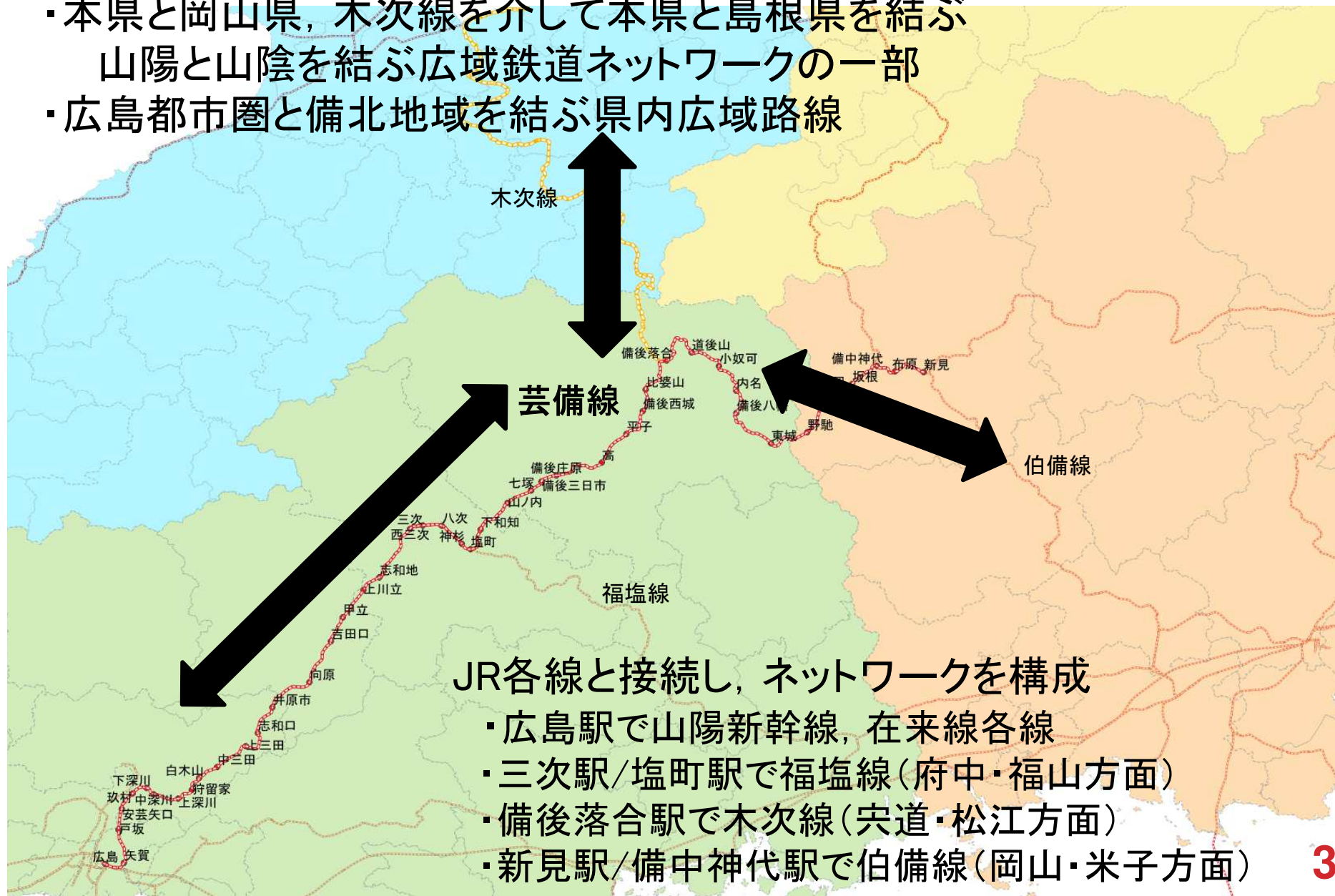


- 1 広島県にとってのJR芸備線
- 2 JR芸備線の環境
 - 2-1 ①沿線人口
 - 2-2 ②沿線の高校・大学
 - 2-3 ③沿線の通勤・通学
 - 2-4 ④沿線の主な病院
 - 2-5 ⑤沿線の主な観光地
 - 2-6 ⑥観光客
- 3 広島県の取組
 - 3-1 (1)移動課題予備調査(R1)
 - 3-2 (2)高校生の通学調査(R1)
 - 3-3 (3)沿線住民アンケート(R2)
 - 3-3-1 JR芸備線の利用状況 ①通学
 - 3-3-2 ②通勤
 - 3-3-3 ③通院
 - 3-3-4 ④買物・旅行・行楽
 - 3-4 (4)鉄道ネットワークを活かした中山間地域の魅力向上事業
 - 3-4-1 事業の概要
 - 3-4-2～4 令和2年度実施状況
- 4 取組の方向性

1 広島県にとってのJR芸備線



- ・本県と岡山県，木次線を介して本県と島根県を結ぶ山陽と山陰を結ぶ広域鉄道ネットワークの一部
- ・広島都市圏と備北地域を結ぶ県内広域路線



JR各線と接続し，ネットワークを構成

- ・広島駅で山陽新幹線，在来線各線
- ・三次駅/塩町駅で福塩線（府中・福山方面）
- ・備後落合駅で木次線（宍道・松江方面）
- ・新見駅/備中神代駅で伯備線（岡山・米子方面）

2-1 JR芸備線の環境 ①沿線人口



沿線には、4市が連担

広島市	119.4万人
安芸高田市	2.9万人
三次市	5.4万人
庄原市	3.7万人



2-2 JR芸備線の環境 ②沿線の高校・大学



沿線には、複数の高校等が所在

庄原市：県立広島大学, 庄原格致高校, 庄原実業高校, 西城紫水高校, 東城高校

三次市：三次高校, 三次青陵高校

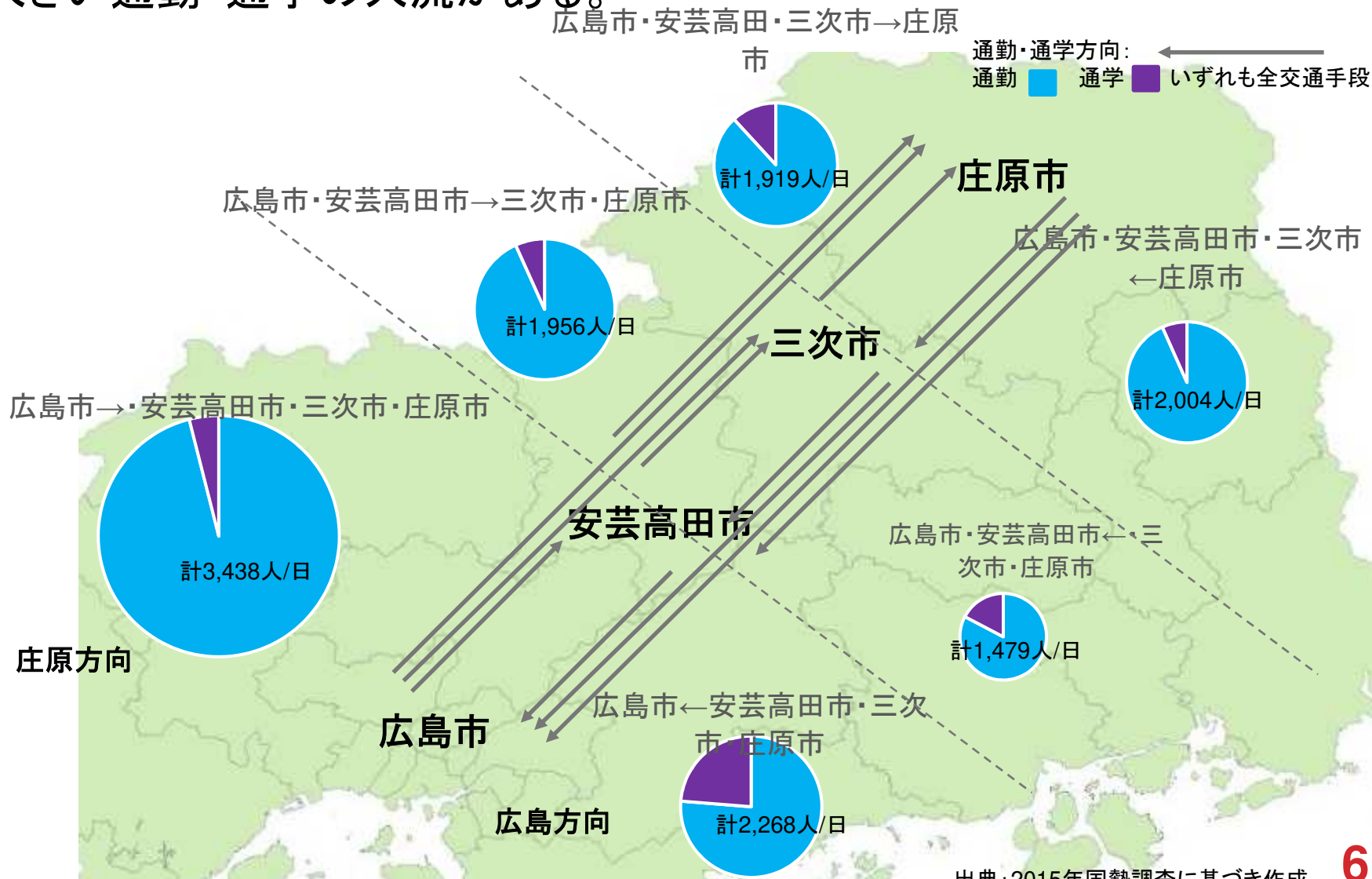
安芸高田市：向原高校, 吉田高校



2-3 JR芸備線の環境 ③沿線の通勤・通学



広島市・安芸高田市の間，三次市・庄原市の間では，双方向に比較的大きい通勤・通学の人流がある。



出典：2015年国勢調査に基づき作成

2-4 JR芸備線の環境 ④沿線の主な病院



広島市内の主要病院のほか、各市に地域の中核的な病院が所在

庄原市：庄原赤十字病院，西城市民病院，東城病院

三次市：市立三次中央病院，三次地区医療センター

安芸高田市：JA吉田総合病院



2-5 JR芸備線の環境 ⑤沿線の主な観光地



沿線には多数の観光地が存在

庄原市：国営備北丘陵公園，帝釈峡，ひろしま県民の森

三次市：三次もののけミュージアム，広島三次ワイナリー

奥田元宋・小由女美術館

安芸高田市：神楽門前湯治村



2-6 JR芸備線の環境 ⑥観光客

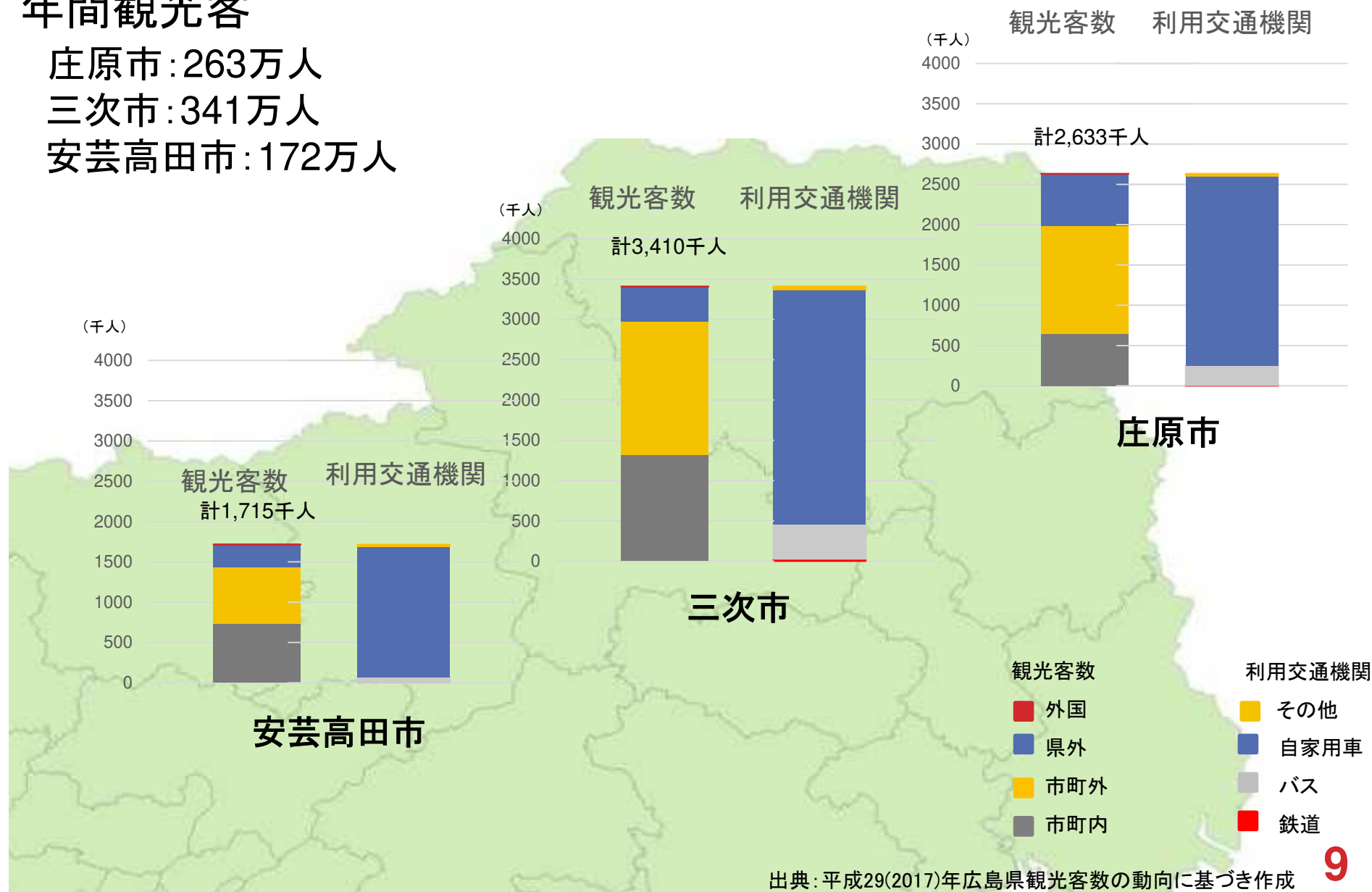


年間観光客

庄原市:263万人

三次市:341万人

安芸高田市:172万人



出典:平成29(2017)年広島県観光客数の動向に基づき作成

3 広島県の取組



1. 鉄道ネットワークの維持・活性化に向けた取組

(1) 鉄道ネットワークを活かした中山間地域の魅力向上事業

鉄道網を地域資源として活用し、中山間地域ならではの地域交流の拡大や地域の利便性向上に取り組む市町・沿線協議会等を支援

➤ R3予算額 27,000千円

(2) 提言活動

① 県の施策提案(国交省, 県選出国會議員に対して)

② 有志23道県による緊急提言

8/2 広島県が発起人代表として有志知事による国交大臣への提言
(広島, 鳥取, 島根, 徳島, 香川の各県知事本人が参加)

→(要望項目) ・鉄道利用促進のための機運醸成
・鉄道事業者の経営基盤の安定化への支援
・鉄道事業法における手続きの見直し

③ 毎年, 沿線協議会や市町の意見をとりまとめJRへ要望

2. 芸備線に関する取組

(1) 移動課題予備調査(R1)

(2) 高校生の通学調査(R1)

(3) 沿線住民アンケート(R2)

(4) 鉄道ネットワークを活かした中山間地域の魅力向上事業(上記1.(1))

3-1 広島県の取組(1) 移動課題予備調査(R1)



調査概要

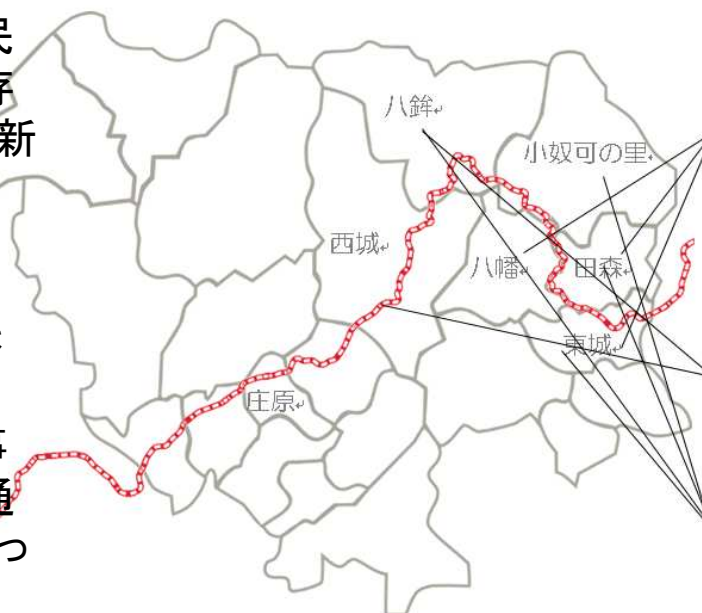
JR芸備線増便(令和2年4~7月・11月, 東城~備後落合駅間)区間の自治振興センター長に地域の移動実態と交通ニーズのヒアリング調査を実施した。

実施時期	令和2年3月
対象	東城町:小奴可の里, 八幡, 田森, 東城 西城町:八銚, 西城
調査内容	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の現状を踏まえた移動ニーズの掘り起し(移動の頻度, 移動手段, 行先など) ・移動の目的地となる行事や観光資源等の地域資源調査

結果概要

・マイカー利用が困難な住民は共助等の移動手段に依存する部分も大きいことから, 新たな交通手段が必要との意見があった。

・自治振興センターで開催される地域行事や大学生との交流事業など地域活性化事業への参加促進に公共交通を利用したいとの意見があった。



サイクリング, 荒神神楽など地域資源を活かした交流人口呼び込みに意欲
⇒(例)モニターツアー試行, 地元と来訪者をつなぐ人材の発掘

広島県立大学等との交流事業を拡充したい意向
⇒(例)シェアサイクル試験設置, 住民との交流行事試験開催

サロン, デイホームへ参加するための移動手段に苦慮
⇒(例)フリーデマンド調査

事業反映の方向性

地域行事等と連携し, 地域住民へのモビリティ・マネジメントも組み込んだ鉄道と2次交通のネットワークを検討する。

3-2 広島県の取組(2) 高校生の通学調査(R1)



調査概要 庄原市内の県立高校の生徒の通学手段に係る状況調査を実施した。

実施時期	令和2年3月
対象	庄原市内の県立高校4校(庄原格致, 庄原実業, 西城紫水, 東城)
調査内容	生徒の通学手段把握, 地図へのプロット, 施策の検討

結果概要 ・4校の生徒数合計879人のうち鉄道転換の可能性のあると考えられる生徒は97人(保護者送迎からの転換, 入寮・下宿からの転換)

▼潜在的鉄道利用者(保護者送迎通学者, 寮・下宿等からの通学者)

地域	高校	鉄道		路線バス		保護者送迎		寮・下宿等		合計	
		実数	(%)	実数	(%)	実数	(%)	実数	(%)	実数	(%)
合	計	161	(48)	74	(22)	47	(14)	50	(15)	332	(100)

事業反映の方向性 利便性の高い二次交通や待合環境を整備し, 生徒にも無理なく, 保護者が送迎負担から解放される方法を検討する。

▼保護者送迎通学者, 寮, 下宿等通学者分布(4校計の一部)



3-3 広島県の取組(3) 沿線住民アンケート(R2)



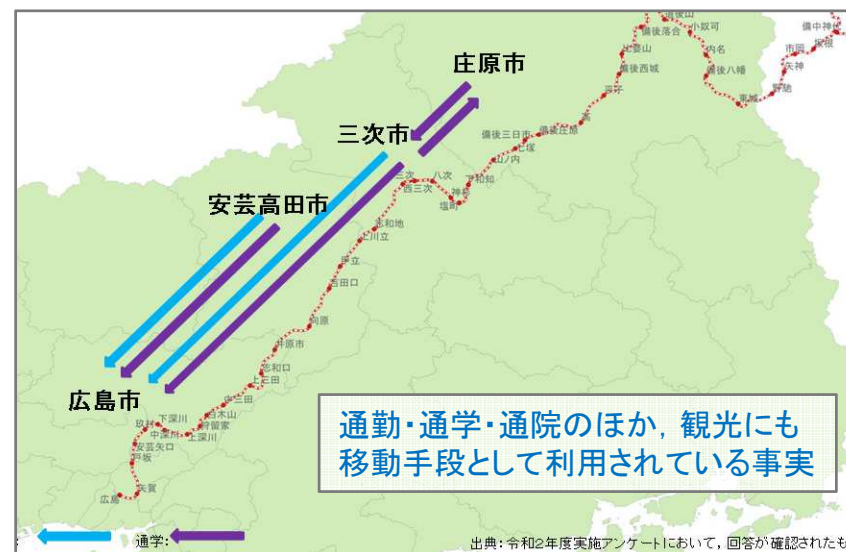
調査概要 潜在する移動ニーズの把握を目的に、JR芸備線・福塩線の沿線住民に対し、郵送(一部web)アンケートにより、鉄道やバス等公共交通の利用状況や移動状況を調査した

実施時期	令和2年7~9月
対象	JR芸備線・福塩線の沿線住民(府中市・三次市・庄原市・安芸高田市・世羅町)(駅から概ね4km)
調査数	配付:計1470通, 回答:計674通(回収率45.9%)
調査項目	①年齢, 性別, 職業など, ②頻度の高い移動先, 交通手段, 回数, ③鉄道・公共交通の利用状況

結果概要 通学や通院, 買い物など, 学生や高齢者に鉄道を利用する例が見られた

《回答のあった鉄道を利用した移動例》

- ①通勤利用
 - ・安芸高田市・三次市から広島市への通勤
- ②通学利用
 - ・安芸高田市から広島市・三次市への通学
 - ・三次市に住む生徒の通学利用
- ③通院利用(大学病院への通院・地域の診療)
 - ・三次市・庄原市から広島市内への通院
 - ・庄原市内の通院
- ④買物・旅行・行楽
 - ・行楽を兼ねた広島市内への買物, 野球観戦



事業反映の方向性

- ①マイカー通勤者への鉄道利用の提案
- ②学生の家族送迎から公共交通利用への移行促進
- ③通院など地域住民の利用促進
- ④観光利用の促進

3-3-1 JR芸備線の利用状況 ①通学



本県実施アンケートでは、安芸高田市から広島市・三次市への通学利用、三次市から庄原市への通学利用、三次市内、庄原市内の通学利用が認められた

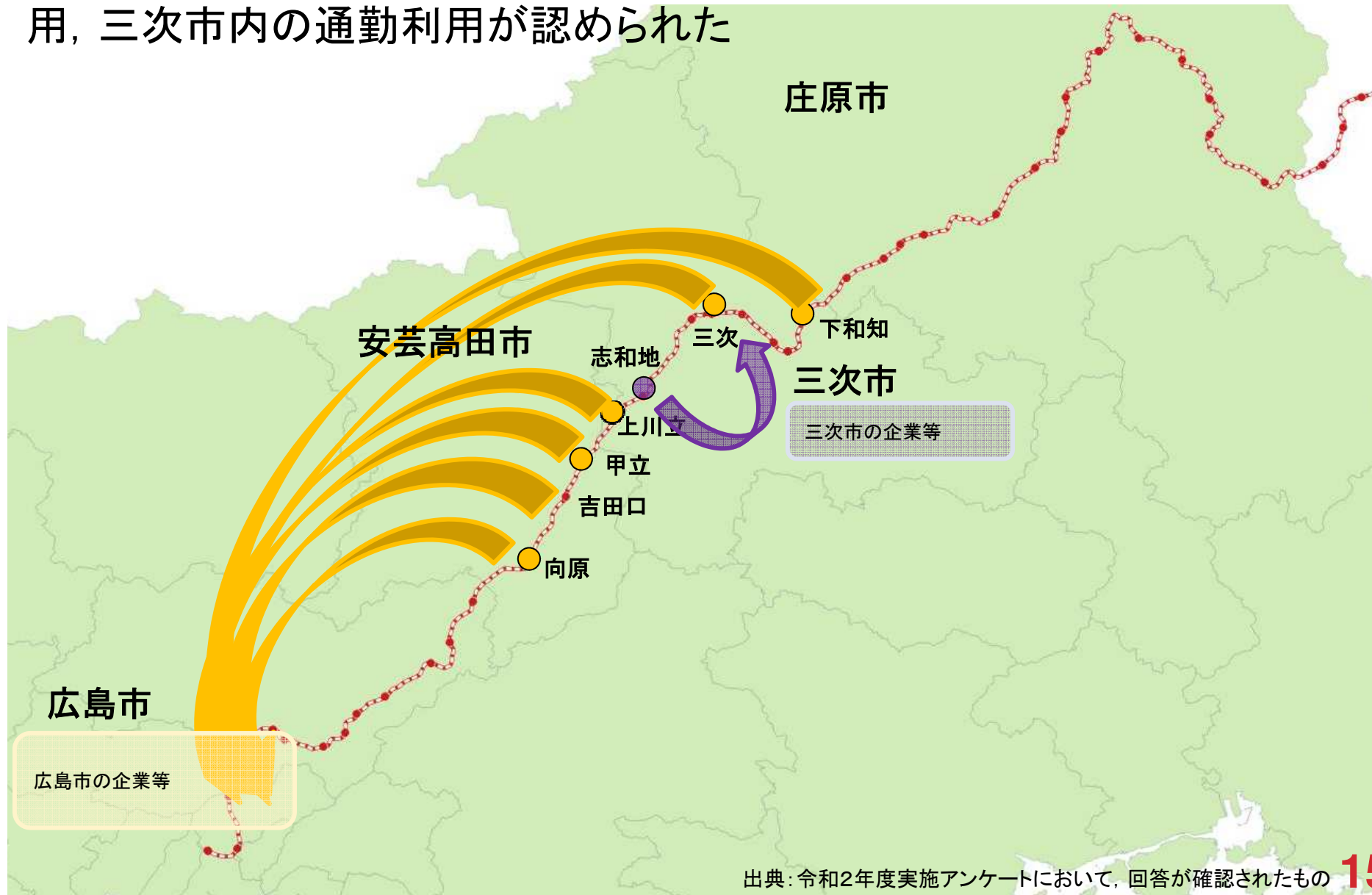


出典: 令和2年度実施アンケートにおいて、回答が確認されたもの

3-3-2 JR芸備線の利用状況 ②通勤



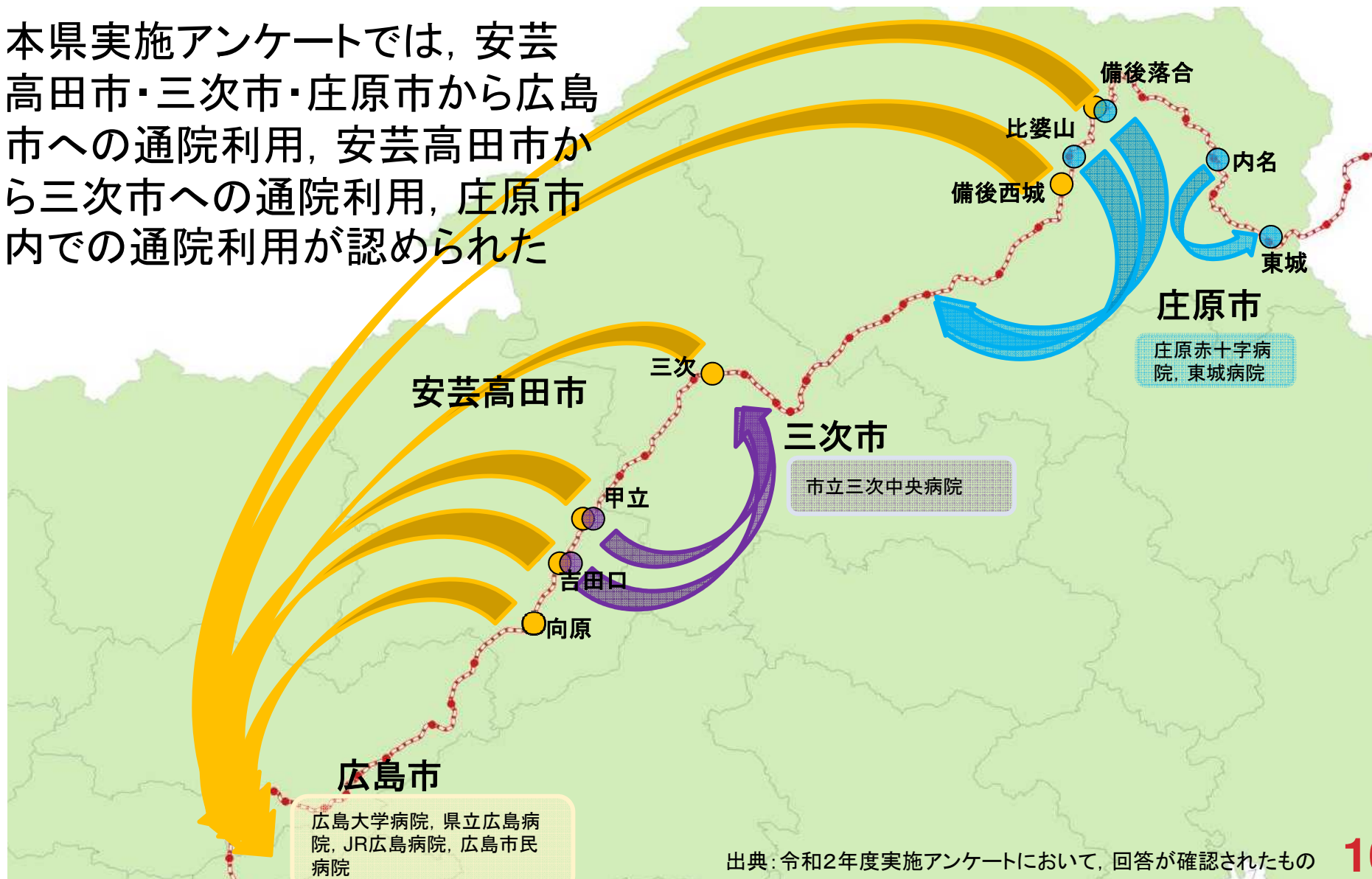
本県実施アンケートでは、安芸高田市及び三次市から広島市への通勤利用、三次市内の通勤利用が認められた



3-3-3 JR芸備線の利用状況 ③通院



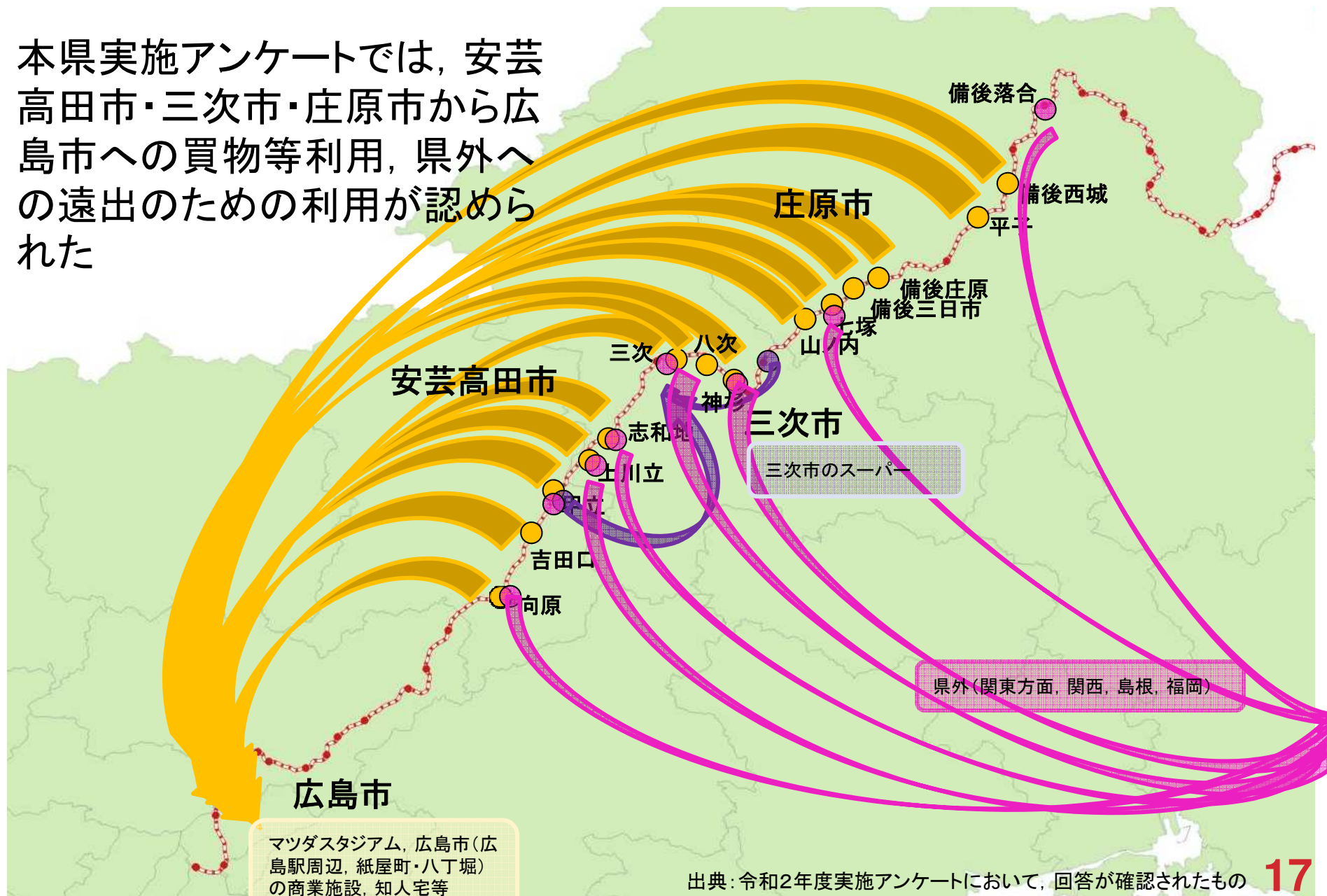
本県実施アンケートでは、安芸高田市・三次市・庄原市から広島市への通院利用，安芸高田市から三次市への通院利用，庄原市内での通院利用が認められた



出典：令和2年度実施アンケートにおいて、回答が確認されたもの

3-3-4 JR芸備線の利用状況 ④買物・旅行・行楽

本県実施アンケートでは、安芸高田市・三次市・庄原市から広島市への買物等利用，県外への遠出のための利用が認められた



マツダスタジアム, 広島市(広島駅周辺, 紙屋町・八丁堀)の商業施設, 知人宅等

出典: 令和2年度実施アンケートにおいて, 回答が確認されたもの

3-4-1 広島県の取組(4)

鉄道ネットワークを活かした中山間地域の
魅力向上事業



■事業の概要

目的	平成30年7月豪雨災害による被災からの全線復旧を受けて、中山間地域の魅力向上を図るため、鉄道網を地域資源として活用し、中山間地域ならではの地域交流の拡大や地域の利便性向上に取り組む市町・沿線協議会等を支援する
事業内容	<p>○鉄道網を地域資源として活用した、地域交流の拡大等の取組を支援する。</p> <ul style="list-style-type: none">・鉄道を活用した広域観光の促進・鉄道路線・駅舎を活用したイベントによる地域の魅力発信・鉄道を核とした地域交通の利便性向上 <p>《対象路線》 JR芸備線, JR福塩線 《支援額》 上限10,000千円</p> <p>○移動実態調査(R2),移動ニーズに基づく実証実験(R3)</p>
補助対象者	市町・沿線協議会等
成果目標	鉄道の利用者数の維持
年度	令和2年度～

3-4-2 広島県の取組(4)

鉄道ネットワークを活かした中山間地域の
魅力向上事業



■ 令和2年度実施状況

路線	区分	事業	事業費等
芸備線	広域観光	<ul style="list-style-type: none"> ・乗りんさい芸備線沿線回遊ツアー ・庄原ライナーを活用した庄原観光ツアー 	4団体5事業 事業費7,900千円 補助額3,620千円
	路線・駅舎	<ul style="list-style-type: none"> ・芸備線おもてなしマルシェ ・庄原駅前フェスタ ・車窓からの芸備線フォトコンテスト(プレイベント) 	
	地域交通	—	
福塩線	広域観光	<ul style="list-style-type: none"> ・福塩線ワイン列車 	1団体3事業 事業費3,328千円 補助額2,488千円
	路線・駅舎	<ul style="list-style-type: none"> ・福塩線写真コンテスト ・八田原トンネルイルミネーション(実施計画作成) 	
	地域交通	—	

3-4-3 広島県の取組(4)

鉄道ネットワークを活かした中山間地域の
魅力向上事業



■ 令和2年度実施状況

事業名	芸備線おもてなしマルシェ
実施主体	芸備線対策協議会

4駅でおもてなしマルシェを同時開催



- 同時開催で小規模イベントにも集客力
- 「おもてなし」側のモチベーションも強化

定期列車で4駅のイベントをハシゴする
駅めぐりツアーの実施
(4駅発計5コース)



- 定期列車を利用した外出を提案

区分	見込み	実績
4駅同時開催イベント	来場計約500人	来場計約1,820人
駅めぐりツアー	5コースで140人	5コースで153人

今後の方向性

沿線市間の交流喚起に手応え 芸対協は、持続的な取組としていくため、地域の住民団体を「マルシェ」の実施主体として発掘・育成する方針

3-4-4 広島県の取組(4)

鉄道ネットワークを活かした中山間地域の魅力向上事業



令和2年度実施状況

事業名	庄原ライナーを活用した庄原観光ツアー
実施主体	(一社)庄原観光推進機構



庄原ライナー(10~12月の土日祝日に運行)着地ツアーを造成

- 庄原へ行きやすい列車
- 着地の移動手段を用意

見込み	実績
11回で約150人	11回で 226人

今後の方向性	アクセスのよい列車と着地の移動手段の組合せ
--------	-----------------------

4 取組の方向性



① 芸備線の環境とこれまでの取組から、次の4つの仮説に基づく、利用促進の取組を進めてはどうか

仮説①

ダイヤ・本数の改善や、二次交通の利便性向上によって、自家用車等からの転換を図ることで利用が促進されるのではないか

取組の方向性①

通勤利用の拡大

仮説②

鉄道の優位性のある地域(例:備後庄原 - 備後西城間)では、これを活かし主に通学需要のきめ細かい取込みを図ることで利用が促進されるのではないか

取組の方向性②

通学利用の拡大

仮説③

鉄道施設に魅力訴求の余地があり、地域の住民の交流意欲も高い地域では、地域行事等と連携した地域の交通手段の整備により利用が促進されるのではないか

取組の方向性③

地域住民の外出増
関係人口の誘引

仮説④

沿線3市には、年間776万人の観光客が訪れており、観光利用の誘引や移動手段の鉄道への転換を図ることで利用が促進されるのではないか

取組の方向性④

観光利用の誘引
移動手段の鉄道への転換

② 利用促進の取組を行う上で、何らか目標を持って取り組んではどうか。